

平成29年度 地域密着型研究課題

No.	課題名	研究概要	研究期間
1	特定健診データの解析による県民健康実態調査	県内の複数保険者の特定健診データを集約し、疫学的に解析します。	H29～32
2	FPE培地を用いたと畜場でのstx 遺伝子の迅速スクリーニング検査法	stx 遺伝子を用いたと畜場での検査体制を確立します。迅速で精度の高いスクリーニング検査法を開発し、食肉の安全性を確保するとともに、感染症(人)由来の菌株との比較により、牛由来のEHECのリスクを検討します。	H27～29
3	ノロウイルス食中毒注意報・警報制度に係る環境水調査	県内の主な流域下水道への流入下水中におけるノロウイルス遺伝子量を定期的にモニタリングすることにより、各地域におけるウイルス汚染実態を調査します。また、発生動向調査(感染性胃腸炎患者数)との比較検討により、県内におけるノロウイルス感染リスクを評価します。	H27～29
4	岐阜県におけるマダニ媒介性感染症のリスク評価	岐阜県内におけるマダニ分布と病原体保有状況を調査してリスク評価を行うとともに、マダニからの病原体遺伝子検出法について検討を行います。	H29～31
5	GC-MSによる危険ドラッグ分析に関する検討	危険ドラッグに含まれる薬物は、ここ数年で急激に増加し、さらに構造類似体も存在するため、複数の分析法によるデータに基づいて同定結果を導くことが必要です。一昨年度導入したGC/MSによる危険ドラッグ分析について検討し、危険ドラッグ成分のより確実な同定を目指します。	H28～29
6	網羅的解析手法を用いた低分子化合物解析技術の開発	網羅的解析手法を、薬物乱用対策事業に資するための「道具」として初めて使用し、「データ処理」と「化合物同定」に応用します。	H29～30
7	空間放射線量の実態調査研究	岐阜県は、平野部から山間部までの多様な地質の影響によって、空間放射線量が一律でないと考えられます。そこで、各地の空間放射線量を測定し、地質との関連について調査・解析します。	H27～29
8	微小粒子状物質の成分に関する研究	行政検査で実施している微小粒子状物質(PM2.5)の成分分析の検査項目に、水溶性有機炭素を追加して成分分析を実施し、統計解析をすることで、発生源及びその寄与割合を推定します。	H28～30
9	GC/MSを用いた県内河川における化学物質の網羅分析に関する研究	GC/MSを用いた県内河川における化学物質の網羅的な分析方法を確立することを目的とし、さらに、河川水実試料を分析し、環境中の各化学物質の濃度レベルや季節変動、降雨時等の影響など環境動態を調査することで平常時の環境バックグラウンドの実態を把握します。	H29～31
10	網羅的分析技術を活用した食品検査法の開発	食品に含まれるアレルゲンやエンテロトキシンを含めた多成分を網羅的に検出し、有害物質の有無や食材の品種や産地などを同時に判別できる手法の開発を試みます。	H29～31
11	アジサイ、アマチャの中毒原因物質に関する研究	アジサイ属植物の摂食による食中毒事例について、原因物質の特定と、中毒事例の疫学情報に基づき、原因物質の最小発症毒素量を推定します。また、アジサイ属植物の種による中毒のリスクを評価します。	H28～29
12	食品中の異物検査法の確立	食品への異物混入事案において、より効果的な再発防止指導に結びつく分析結果の提供のため、最適な検査体制の構築を目指します。そこで、混入が想定される素材ごとに、最適な検査プロセスを確立し、各種分析機器におけるデータベースを拡充します。	H27～29
13	糞便検体からの食中毒起因菌検出に関する研究	食中毒(疑い)事例発生時に、糞便検体から一度に多菌種が検出可能な反応系を構築し、食中毒(疑い)発生時に利用可能な検査法を確立します。	H27～29